

# 授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	松戸市立高木第二小学校
-----	----------	-----	-------------

## 1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 平成31年度の全国学力・学習状況調査において、算数全体の正答率が国や県の平均を下回っていたが、特に数と計算領域の正答率の差が大きかった。
- 令和3年度の調査においても、算数全体の正答率が低かったが、特に図形の面積を求める問題の正答率が低く、基本的な知識や技能の定着に課題が見られた。
- 誤答分析の解答類型から、千葉県の傾向同様、無解答率も高かったが、99（その他の解答）の割合が多く、何かしら書こうとする意欲はあるものの、問題を最後まで解ききれない児童が多いと考えられる。

## 2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 各学年の発達段階に即した数と計算の領域における基礎的・基本的な学習内容の確実な定着を図り、成就感や達成感を味わわせて児童の学習意欲を向上させることが学力向上につながると考えた。
- 導入段階においてICT機器を効果的に取り入れることにより、児童の学習に対する関心が高まり、意欲的に取り組むだろうと考えた。

## 3. 具体的な実践

- 『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』の活用
  - ・全校で算数の授業の進め方を統一した。また、発達段階に応じて、対話的な学習活動を取り入れた。
- ノートを使い方を統一し、1時間の思考が見えるノートづくりをする
- 児童の学習への関心を高めるための、導入の工夫やICT機器の活用
  - ・身近な素材を使って問題を提示したり、児童の意見を取り上げる際や振り返りを書く際にタブレットを使用したりして、児童の学習意欲を高める工夫を行った。

## 4. 成果

- 児童への意識調査において、学校全体としては算数が好きと答える児童の割合が1ポイント増加という結果であったが、内容が難しいといわれる5年生で9ポイント増加した。また、授業の様子としても、自力解決の場面で、自分の意見を表現しようとする児童の姿が増えた。
- 本校独自に行った、数と計算領域に関するテストにおいて（1学期と2学期に前学年の内容のものを実施）、正答率が上がった児童も多く、少しずつではあるが、基礎的な学習が身に付いてきていると考えられる。

### ◆担当指導主事から（東葛飾教育事務所 指導主事 本橋 一浩）

- 全学級において『「思考し、表現する力」を高める実践モデルプログラム』を参考に授業改善を進めてきた。また、授業の中に適用問題を解く時間を位置付けたり、ノート指導について全校で統一したりすることで、基礎学力の向上につながったと考える。今年度は、研究主題の中にある「主体的・対話的」を意識した授業展開が多く、児童の学習意欲の向上も見られた。